

虫捕りに夢中だった子ども、芋掘りを忘れて蟻の家を作った子ども、土をみて遊ばずにいられなかった子ども達の姿は、芋掘りにこだわろうとする私の気持ちを越えていたように思います。そして、どの子どもも、自分のリュックの中のお芋に愛着をもって家路につきました。

子どもたちに励まされ、土に魅せられて、私の日曜農業は続きそうです。

(まんとみ幼稚園)

“土の匂い”を

飯島 俊勝

春の慈光の中に芽ぶく草花は、大地を割って顔をのぞかせる。子ども達と、昨秋、土づくりから始めて一緒に植えた、チューリップ、ヒヤシンス、クロッカス等である。草花に、新たな生命を与えた大地の地表は、雪、霜柱でズタズタにされているが、指先で、表面の土を少し除けてみると、黒々とした、冬の厳しさを吸収し、じつくりと力を蓄えた“土の匂い”があ



る。

「土の匂い」を知っている……。

こんな言葉を子ども達に投げかけたくなる春の匂いである。

土ほこりの匂い、粉塵の顔をそむけたくなる匂いばかり。本当の「土の匂い」を知っている子ども達はいるのだろうか。アスファルトジャングルと言われて久しいが、都会だけでなく、開発と言う名の基に、その浸蝕は拡がっている。

私の園は、昨年、今まで寺院境内地を借用していたが、創立三十五周年を迎え、社会福祉法人の承認を受けて、隣地に新園舎を建て移った。当然のことながら庭も新しい。テニスコートにしても良いほどの土を入れてもらった。アスファルトに近いほどに堅く、平らな庭で、スクーター、サッカー、縄飛びには、非常に都合が良い。

しかし、新しい庭になって、子ども達のおそびに変化がおきたのである。それは、一つの「おそび」が子ども達の間で行なわれなくなってしまったのである。園に代々伝わっていた「かたまり」づくりが消えてしまったのである。

「かたまり」とは、土で作った「だんご」である。けれども、子ども達は、だんごと呼ばずに「かたまり」と云う。「かたまり」は多少の違いはあるが、二種類ある。一つは、泥のだんごで、もう一つは、ビンの栓等の用器の中に、細かな砂をいれつくるものである。

「かたまり」は、園庭の細かい砂を、子ども達が考えだしたいくつかの方法で集め、それと水とで作るのである。微細な砂集めから「かたまり」を作るまでの作業は、驚きの連続である。子供達の砂

集めの作業を見ていると、本当に良く思いついたな！、なるほど、理に叶っている。と、感心せずにはいられない。

①地面の荒い砂を除け、その下の堅い土を、手のひらで叩いて細かい砂を集める。

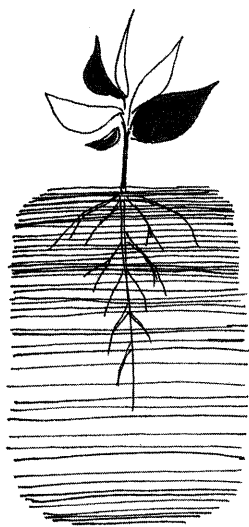
②滑り台の上から砂を流し、滑り台の上部板に付着した砂を集める。

③浮動木に土を乗せ、力一杯こぎ最後に残った砂を集める。

まだまだあるが、子どもの智慧には脱帽である。

新しい園舎となり、大人は、何もかも快適で子ども達の保育に対しても、良い環境が整った、これでよし、と思いがちであった。境内の多くの木々が茂った、変形した土の庭が、子ども達に、無言のうちにも多くの事を教えてくれたことに「かたまり」事件は教えてくれた。

「土の匂い」「季節の匂い」「自然の匂い」のある庭をもう一度。子どもの心、かえってこい。「かたまり」を又、作ろう！！



(信州上田 芙蓉保育園)